

特定保健指導実施者の健診結果の分析と効果の検証

○紙名 祝子、南 智恵、酒井 香名、入道 優子、亀澤 徹郎、熊谷 仁人
(公益財団法人 兵庫県健康財団 保健検診センター)
林 千代、西尾 久英
(神戸大学大学院医学研究科疫学分野)

【目的】特定保健指導を受けた者のうち、終了者と途中脱落者の翌年の健診結果を比較することにより、特定保健指導の効果を検証した。

【対象】A事業所の男性職員で23年度積極的支援を受けた126名のうち、24年度健康診断結果が得られた123名で、最後まで終了した者72名(終了者群)、途中脱落した者51名(脱落者群)を対象とした。

【方法】平成23年度と24年度の健診結果で終了者群と脱落者群の保健指導レベルの変化を比較した(χ^2 検定)。次に各群の健診データを23年度と24年度の平均値で比較した(t検定)。

【結果】平成23年度積極的支援の対象者について、支援介入後、終了者群と脱落者群について、保健指導レベルの変化を翌年の健診結果で確認した。積極的支援のままであった者を“非改善群”、動機付け支援や情報提供に変わった者を“改善群”とし分析した。改善群へと移行した人の割合は、終了者群35名(48.6%)、脱落者群14名(27.5%)となり、終了者群で有意に多い結果となった($p < 0.05$)。

健診結果項目の平均値を比較すると、①体重(kg)は、終了者群81.9→79.5($p < 0.001$)、脱落者群79.2→78.9、②BMIは、終了者群27.4→26.7($p < 0.001$)、脱落者群27.1→27.0、③腹囲(cm)は終了者群95.0→92.4($p < 0.001$)、脱落者群92.6→93.0、④収縮期血圧(mmHg)は、終了者群131→128($p < 0.05$)、脱落者群130→131、⑤拡張期血圧(mmHg)は、終了者群83→80($p < 0.01$)、脱落者群84→83、⑥中性脂肪(mg/dL)は終了者群164→144($p < 0.05$)、脱落者群159→173、⑦HDLコレステロール(mg/dL)は終了者群48→50($p < 0.01$)、脱落者群51→51、⑧空腹時血糖(mg/dL)は、終了者群102→99($p < 0.05$)、脱落者群97→98であった。

【考察】昨年我々は、保健指導を受けたものは、何らかの改善効果が期待できることを検証した。今回は、終了者群と脱落者群の健診結果を比較することで、どの程度改善効果に違いがあるのかを確かめた。その結果、最後まで支援を受けたものは、保健指導レベル、メタボ関連の健診項目全てにおいて有意に改善していることが分かった。

一方、途中で中断した者は、健診結果に改善が無いことから、生活習慣等の改善のためには、継続的な介入が必要であると考えられる。特にこの団体は、特定保健指導を毎年実施しているが、積極的支援者の脱落率がどの団体よりも高いため、今後脱落を予防するための、効果的な介入回数や期間、そして、支援形態を考える必要がある。今回の結果を踏まえ終了率を上げることが健診結果と保健指導レベル改善への最優先課題であると考えられた。